

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 相川小 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関り、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 大田垣 洋

学校教育目標	学校経営の方針
確かな学力と 豊かな心をもち 未来を切り拓く 児童の育成	○教育基本法等関係諸法令並びに学習指導要領・神奈川県教育ビジョン・厚木市教育大綱に基づいた学校経営を展開する ○児童・保護者・地域の実態を踏まえ、「地域とともにある学校」づくりをめざし、全教職員と保護者・地域の協働による学校運営が図られるような学校経営に努める ○児童が安心・安全に生活・学習できるように危機管理体制を確立した経営に努める

今年度の重点目標

- (1) 学ぶ力の育成(生きる力の育成、確かな学力の向上をめざす)
- (2) 豊かな心・健やかな体の育成(豊かな心の育成と安心・安全教育、健康教育・道徳教育の充実を図る)
- (3) 自ら未来を切り拓く力・実践力の育成(自主的実践的な態度の育成、環境教育の充実をめざす)
- (4) 学校管理体制の確立・地域とともにある学校づくり(学校管理体制の確立と開かれた学校づくりをめざす)

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
(1) 学ぶ力の育成 ○確かな学力の向上をめざして ○地域との連携による授業の創造 ○幼・保・小・中との連携 ○歌声あふれる学校	1・3	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上 ・学力・学習状況調査の分析と、それを生かした学力向上策の実施 ・効果的な教育課程の編成(カリキュラム・マネジメント) ・協力指導体制や少人数指導等、学習形態の工夫 ・読書活動の充実 ・学校運営協議会との連携を密にした授業の充実 ・家庭・地域との積極的な連携(+α)を通しての学力向上 ・幼・保・小・中の連携 ・歌声あふれる学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領をもとに教科横断的な年間計画についてさらに検討し、指導に役立てることができた。 ・算数検定やその後のフォローアップ講座により学力向上プランの目標に係る指標を達成することができた。 ・教材・教具・ICT機器の利用やその活用を工夫し、わかる授業の実践をした。児童アンケートでも「授業がわかる」が90%に達していた。 ・担任、教科担任との連携を密にし、児童の考え等を共有し、指導に生かすことができた。 ・学校司書に学習に関する資料の準備、授業中の支援や図書室運営をしてもらうことで、調べ学習、読書月間の活動などに深まりをもたせることができた。また、読書スタンプカードや本の福袋といった図書室に足を運ばせる工夫が実を結び年々利用率が増えている。 ・地域、保護者の協力が得られ、田植えや稲刈り、いもほり等では、地域の教育力を生かした授業を行うことができた。 ・家庭学習の手引きや音読カードを使い、家庭学習の習慣化を進めた。児童のアンケートでは家庭学習の習慣化については95%が習慣化していると答えた。 ・学校運営協議会では、各部会ごとの打ち合わせを持った。本の読み聞かせや家庭科ボランティア・九九塾等を中心に、たくさんの地域の方や保護者が支援をしてくれている。 ・中学校の兼務発令による英語の教員による指導を通して、スムーズに中学校へと進学できる環境となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画、評価規準については適宜見直し、さらに本校の教育目標に近づけたい。 ・学力向上についての全校での取組については、教師間で共通理解を図り、確実に課題への取組を行いたい。 ・わかる授業の実践に取り組むとともに、主体的に取り組む児童を育成する。 ・各教科・道徳・総合的な学習の時間等の言語活動の充実を図る。 ・学校運営協議会と連携し、地域の教育力を生かした授業を実践し、授業ボランティアの活用を進める。 ・家庭学習の習慣化をさらに進められるよう家庭との連携を行う。 ・漢字や言語能力の定着については、各学年で習熟方法の工夫を模索する。 ・各教科では、ノート指導を通して、書くことを習慣化し、要点や重要事項を区別して書くようにする。 ・特別の教科道徳を通して自分の考えや思いをまとめるようにする。

<p>(2)豊かな心・健やかな体の育成 ○個を大切に支援教育の充実 チームで取り組む児童支援 ○きめ細かな児童指導の推進 ○児童の安全確保と危機管理体制の維持・推進 ○健康教育の推進 ○体力づくりの推進</p>	<p>2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制の確立と教育相談の充実 ・支援を必要とする児童の情報収集や適切な対応 ・チームで取り組む児童指導 ・いじめ暴力行為の早期発見・早期対応 ・「自分の命は自分で守る力」を身に付けるための防災教育の実践 ・自分自身で健康のことを見つめ考える力の育成 ・計画的、長期的、積極的な体力づくり・仲間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズに応じた個別指導に対応できる体制を継続した。 ・継続した支援と保護者連携を進められるよう、教職員間のネットワークづくりを心掛け、校内教育支援委員会と校内の支援に関する会議を実施した。 ・児童指導上の問題が起きた時には、教職員が児童指導担当と連携をし、チームで対応できるよう流れができています。 ・今年度、各教室の施設ができるよう整備が進んだので、施設するパターンでの全校不審者対応訓練を実施した。 ・職員研修(心肺蘇生研修)を実施し、アクションカードを用いて教職員が緊急時に適切に行動できるよう訓練を実施した。 ・健康教育について、包括的性教育を意識した実践をしたり、ICT機器による視力への影響を児童が自ら意識できるよう働きかけたりした。 ・学校保健委員会では、コロナ禍の子ども達の心身の健康課題を取り上げ、学校や保護者、地域の方と子どもたちの心身の健康課題を共有した。 ・運動会やなわとび大会、持久走仲間などの行事や、体育委員会の活動「体育の日」を通して、子どもたちが運動に親しみ、体力向上につながるような計画を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた人員でできる支援を可能な限り実践しているが、隠れたニーズにも見通しを持って対応していくためには組織として対応する必要がある。 ⇒週に1度の情報共有の場の設定の継続 ⇒校内教育支援委員会や校内支援会議の計画的な運用 ・感染症対策を含め、いまの子どもたちの健康課題を意識した健康教育を実施していく。
<p>(3)自ら未来を切り拓く力 実践力の育成 ○自主的・実践的態度の育成・自己肯定感を高める活動の推進 ○人権教育の充実とインクルーシブ教育の充実 ○道徳教育「特別の教科 道徳」の充実 ○情報教育・プログラミング教育の推進 ○環境教育(SDGs)の充実</p>	<p>1・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の充実 ・「相川冒険隊」(異年齢集団)の実践 ・人権意識を高め、人権感覚を磨きあえる教室づくり ・インクルーシブ教育の理念の理解と取組の充実 ・道徳教育の充実 ・情報教育の活性化を図る ・系統的な情報モラル教育の展開の構築 ・環境教育(SDGs)の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・相川冒険隊(縦割り活動)は、異年齢での交流を深めることができた。また、上学年をリーダーとし協力して活動することができている。主体性、自主性をさらに伸ばしていきたい。 ・児童会からの発信により、6年生の有志によるハッピープロジェクト活動を行うことができ、児童の主体的な活動を引き出した。 ・人権にかかわる内容について、児童会からの発案を受けて、6年生が中心になり活動を継続することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相川冒険隊の活動は、人間関係性などの育成に効果的である。次年度も活動内容や時期を工夫したり、グループの編成を考えたりしながら、活動の機会を見直していく。 ・インクルーシブ教育を組織的に推進していくために、校内研修の実施を進め、本校の実態を見つめながら授業づくり、学級づくりの充実を目指していく。 ・人権教育については、次年度も引き続き、児童会や高学年の児童を中心に活動を進めていくことで、すべての児童を多面的に見ていくことにつなげていく。
<p>(4)学校管理体制の確立・地域とともにある学校づくり ○「地域とともにある学校づくり」「開かれた教育課程」の推進 ○学校評価と連動した組織運営の確立と学校情報の発信 ○危機管理体制の確立 ○組織運営を考えた学校配当予算と補助金の適切・効果的活用 ○地域とともにある学校を目指した施設活用・開放の推進 ○「働き方改革」の積極的な推進</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携、ボランティアの導入を意識した学校運営協議会の運営 ・総括教諭のマネジメント力を高めるための組織運営の確立 ・経営戦略と位置付けての学校だより・HPの発信 ・校内における防災・防災計画の確立 ・教職員の事故・不祥事防止 ・学校配当予算と補助金の適切・効果的活用 ・相あいルームの効果的な活用方法の展開 ・働き方改革の積極的な推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間縮減のために、各自が出退勤記録を見直し努力をしてきた。スクールサポートスタッフや地域・保護者ボランティアによる支援が、教員の授業準備などの時間の確保につながった。 ・授業ボランティアや本の読み聞かせなど地域や保護者のボランティア活動を計画・実施した。 ・学校運営協議会での取組については、コロナ禍前の内容とは変わってはいるが、コミスク子どもフェスタの実施など新しい試みも行った。 ・できる限り情報発信を積極的に行い、地域・保護者等への学校理解につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人当たりの仕事の総量が減らない限り、根本的な働き方改革にはならないが、教職員が行う仕事全体を見直し省力化できることを探っていく。 ・学校だより、HP等の発信により学校運営協議会の取組や学校の教育活動について保護者・地域の方の理解が深まるようにする。 ・学校運営協議会について、教職員全体の理解を深め、CSの仕組みを生かした教育活動を更に進められるようにする。 ・安心・安全な学校を目指して、緊急時の対応について体制を整えるとともに、今後も研修を積んでいく。 ・相あいルームの活用については、学校運営協議会と連携し、さらなる良い方法を探っていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの報告

学校運営協議会は、子ども達の笑顔のためにできることをしたいと思っている。学校から行事の手伝いやボランティアの要請があることを待っている。また、今後も可能なイベントを実施していきたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校運営の4本柱を学校運営組織と結び付け、グループ会議を活用して、全職員が学校全体の動きを意識しながら教育活動に取り組んできた。今年度も「学校教育目標の実現を目指す教育活動」を目指してきた。新型コロナウイルスの影響が徐々に少なくなり、例年通りの行事や活動もできるようになってきたことを喜ぶ声が、保護者アンケート及び児童アンケートにあげられていた。また、今後も本校ならではの縦割り班を活かした学習活動や、学校内外の自然環境を大切にしていきたいとの意見が多くみられた。その期待に応えることが本校の大きな使命であると考え。コミュニティスクールの仕組みを活かし、地域の教育力・豊かな自然環境を活用し、有意義な活動を展開していきたい。

一方、多様な状況の児童に対する行き届いた支援については、現在の取組をより充実させる必要があると考えている。今年度組織的な対応を目指して、支援体制づくりに努めてきたことを生かし、次年度はその運用面に注力していきたい。

来年度も保護者・地域の期待に応えるよう、教職員の共通理解を深めて教育活動に取り組むとともに、教職員の「無理をしない働き方の実現」を目指して、よりよい学校経営・学校運営に努めていく。